

学芸員知識を生かした各方面への就職

角 田 芳 昭

はじめに

近年「学芸員」という言葉も一般化し、その活躍がマスコミ等で報道されて、博物館の専門職員としてその社会的地位の高さも不動のものとなってきた。そして博物館施設は社会教育機関として多大の寄与をなしている。その為学芸員として博物館施設へ就職し、活躍してみたいという希望者が増えている。大学において「学芸員養成課程」を開設する大学は年々増加し、最近では全国で約二百数十大学になると言われており、毎年有資格者は三五〇〇〜四〇〇〇人に達している。これに対して博物館関連施設は全国で約四〇〇〇館足らず（平成十四年度末）で採用人数たるや一〇〇人程度といわれている。それ故に博物館学芸員として卒業後直ちに採用され就職する者は非常に珍しく、幸運としか言いようがないのが実情である。学生のレポートを見ても学芸員となり、自分の学んだ知識を企画展示に生かし、調査研究等で発表してみたいという強い意志はなく、「博物館学課程」で学んだ知識を自分の教養とし、あるいは教員となった場合、生徒の引率に役立てる等が記されている。

そこで「学芸員資格」の知識を生かして活躍できる企業、あるいは関連する業種等に就職し、才能を発揮している卒業生もいるので、その実

態を発表してみたい。若干でも参考になれば幸いである。

第一章 日本の博物館施設の現状

学芸員資格を取得し、待望の博物館施設に就職できる人は全くの幸運な人と言わざるを得ない。資格を取得し大学を巣立っていく人数は約三五〇〇人、その他文部省の講座、あるいは通信教育を受講し資格を取得する人が約五〇〇人程度であり、これに対して博物館施設に至っては極めて少ない。学芸員は専門職であり、転勤、転出する者も極めてまれで、定年まで勤務する者が多く、欠員が生じにくい。また開館される施設についても、バブル崩壊後は少なく、それでも統計を見ると毎年三〇〜四〇館は全国で設立されている。

平成十三年度末「博物館園数」（日本博物館協会調）を見ると次のとおりとなっている。

- 総合博物館（国立・公立・私立・大学） 一四四館
（登録博物館・担当施設・その他を含む）
- 郷土博物館 五四一館
- 美術博物館 八四〇館

● 歴史博物館 一七〇九館

● 自然史博物館 一八八館

● 理工学博物館 一七七館

● 動物園 七九館

● 植物園 九〇館

● 水族館 七九館

● 動物・水族・植物総合館園 二七館

合計 三八七四館

登録博物館 八三七 相当施設 三二一 その他 二七二六 国立施設

四五 公立施設 二五四〇 私立施設 一二〇四 大学施設 八五

現状は以上のとおりであり、外国に比較して如何に少ないかが分かる。

特に未登録施設で小規模施設が多いのが特徴である。

しかしこれらの施設へ職を得ることは皆無ではない。例えばここにA生が居た。大学を卒業後に大学院へ進学し歴史学を専攻して、機会がある如に歴史博物館を訪れ、専門とする歴史「カタログ」の研究を行っていた。それらの資料を調査研究しレポートが若干出来上がったので、まとめて研究論文としてある学術雑誌に発表したところ、ユニークな論考であると認められ、博物館側より是非本県施設へ来てその知識を応用し、研究活動を行って欲しいと誘われ、快諾した。修士論文を終え、博士論文に着手した時であり、彼の学問上の努力が実った一例である。

大学在学中の四年間はほんの一部の知識を学ぶものであり、卒業後こそ本場の勝負である。一年一年こつこつと継続した研究の成果が一〇年後、二〇年後に花咲くものである。それも深く狭く研究し、その分野で

の専門家と認められる人になることが必要であろう。

第二章 博物館関係資料

まずは博物館の実情を研究し、その対策を建てるべきである。その第一歩として博物館関連図書により、その所在を調べることである。以下近くにある次の図書を紹介する。

『全国博物館総覧』（財団法人 日本博物館協会編）

一般公開されている全国の博物館を都道府県別、五十音順に配列し、所在地、電話、開館時間、観覧所要時間、入館料、休館日、交通案内、施設概要、沿革、收藏品、展示内容、事業、アドバイス等の各項目ごとに解説されている。加除式であり、これで全国の博物館が把握できる。

『企業博物館事典』（日外アソシエーツ株式会社編）

各種企業の専門性を活かして自社商品を中心に関連する企業の物品資料を収集展示しているもので、企業の歴史である。大小規模の二一五館を収録しており、施設の概要が理解できる。

『個人コレクション美術館博物館事典』（日外アソシエーツ株式会社編）

個人のコレクションを主体にして成立され一般公開されている美術館、文学館等を収録している。『博物館総覧』と同様の編集形式であるが、沿革、概要、收藏品目等が若干詳しく解説されている。

『人物記念館事典』（日外アソシエーツ株式会社編）

特定の人物の業績を記念、顕彰して設立された記念館であり、三〇〇館を掲載している。その他、都道府県別で区分した博物館施設も出版さ

れている。

『大阪の博物館・美術館』（財団法人大阪二二世紀協会編）一二三施設収録
『京・まちの博物館』（朝日新聞京都支局編）七二施設収録

『博物館研究』（財団法人日本博物館協会編）

この研究雑誌は日本博物館協会の機関紙で、博物館の幅広い研究論文、国内外の博物館情報が掲載されており、B五判、平均九〇ページ程度で、内容は博物館長の巻頭言、学芸員の研究論文、当月の「もよおし」「展示会だより」等であり、季節により特集号、そして新館紹介、各種統計、博物館園数等を収録している。また若干の広告を収めており、博物館のディスプレイ会社、標本模型製作会社が見える。この研究雑誌を手にとってみると学芸員の業務が幅広く理解でき、その専門的知識の深さに驚かされる。二一世紀の博物館展望、管理運営等の貴重な研究論文も発表されている。学芸員を目指す人には是非一読してほしいものである。

また、博物館、美術館には大抵図書室、資料室が設けられており、前記の図書資料類は必ず備え付けられていると思う。その他その博物館で開催した過去の展示カタログも保存されていると共に、他館との交換、寄贈本として貴重な展示目録が保管されているので、参考とすべきである。

第三章 公立博物館への就職

公立博物館にはその運営母体として、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良博物館等国が設立している博物館で平成十三年度末四五館とな

っている。続いて都道府県が設立している博物館施設で規模の大きな北海道開拓記念館、北海道立近代美術館、千葉県立中央博物館、東京都現代美術館、神奈川県立歴史博物館、兵庫県立近代美術館、また市町村が設立している博物館では京都市美術館、大阪市立博物館、同美術館、福岡市美術館等約二五四〇館がある。

国が母体の国立博物館施設は学芸員という名称はなく、その性格上研究機関と考えられており、学芸員の資格は必要ない。教授、助教授、研究官、技官等の名称が付けられている。採用に関しては公募という形式はほとんど無く、欠員があつた場合、担当官が後任を薦選して転出した、また専門研究で業績をあげている者、公立博物館より転入する者等である。調査研究歴も長く学識のある者が多く、修士、博士号を取得している者も多い。その為国立博物館施設へ就職を考えている者は、先ず自分の専門とする研究を定め、それに関する研究論文を最低二〜三編を学術論文として発表しておくことである、またその研究対象物の解説等充分行える事、その為には当該博物館の組織を良く知り、展示資料に精通することも必要である。「国立民族学博物館」では助手を採用する年度もあり、その業績によつては正職員として採用される場合があると聞く。

次に地方公共団体の都道府県、市町村が設立母体の博物館施設は比較的採用が多く、早く情報をキャッチして対策をたてることによつて、卒業後直ちに採用されるケースもある。都道府県が設立する博物館施設は比較的規模が大きく、それだけ学芸員やその他の職員も多い。新設博物館の場合、その専門性が重視されており、採用要項にも明記されている。例えば「日本近世絵画を専攻した者」「中国・日本の漆工芸、日本・中国

の彫刻史を卒論等で研究発表した者」「近代美術に関し必要な知識を有し、かつ、美術に関する英語に堪能な者」等とあり、傾向として広く浅く概論的に学んだ人より、狭く深くその専門性を研究している者を必要としている。近年学芸員の専門性が問われ、深い学識が必要とされるに至っている。図録の解説にも英文、和文、欧文等三ヶ国語は必要となつていく。採用人員も一、二名と若干名となつており、応募人数は何十倍となる。その為博士号、修士号を持つ専門研究員、大学院生も多数申し込んでいるのが現実で、学部卒業程度の学識では到底太刀打ち出来ない。最低大学院終了程度の学識が必要であろう。

また近年人員削減傾向にあり、公募でも近隣諸県の大学関係へ案内を出すだけであり、中には公募という形式のみで、他部課の関係職員を配置転属させたりしていると聞き及ぶ。

故に公立の場合は先ず公務員採用試験に合格し、その機関へ採用されるのが先決であり、その後何年かかるとも博物館関連施設へ配属されることを願い、専門分野の研究に邁進し、業績を残しておくことである。

第四章 企業博物館・私立博物館への就職

企業の発展充実に伴い、その企業の歩んできた歴史を残しておきたいという希望から『〇〇会社創立何十年史』『△△社五〇年の歴史』等が編集発行されている。またその会社の製品を資料として残している企業は、博物館、資料館として整理・研究し展示しており、これが「企業博物館」である。その独自のカラーを出し、企業イメージに貢献している。また

企業を起こし成功した人が、個人として資料、美術品等を蒐集し、展示しているものが「私立博物館」である。

企業博物館といわれるものは、企業が経営母体となつているので、まずその企業に就職し、業務の傍ら館内組織、資料の歴史的背景、収集資料の内容等について自分のできる範囲で調査し、精通しておくことが必要であろう。そして「社内報」や「コラム」欄に資料紹介ができるぐらいの学識を備えておくことだ。また担当学芸員が不在の場合、代理で解説案内できるように常日頃より訓練しておくこと、欠員が出た場合、その学芸員として配属されるかもしれない。人間いつ何が起るか予想もつかない。「果報は寝て待て」の諺があるが、「果報は練つて待て」で、常日頃より研究を怠らないことである。

『企業博物館事典』（前述二七四ページ）には、二一五館が収録されており、業種別に金属・鉱業、建設、食品、飲料、紙・繊維、化学・医薬学、機械・精密機器、商業・金融、交通・運輸、放送・通信、科学エネルギー、生活・文化等に分類されている。所在地、設立年月、交通、開館時間、入館料、休館日、電話・FAX等と、出版物の有無も記載されている。

近畿地方の主な館を紹介すると、「竹中大工道具館」（兵庫県）「うすくち龍野醬油資料館」（兵庫県）「グリコピア神戸」（兵庫県）「菊正宗酒造記念館」（兵庫県）「白鹿記念酒造博物館」（兵庫県）「白鶴酒造資料館」（兵庫県）「UCCコーヒー博物館」（兵庫県）「鐘紡繊維美術館」（大阪府）「ユニチ力記念館」（兵庫県）「島津創業記念資料館」（京都府）「高島屋史料館」（大阪府）「梅小路蒸気機関車館」（京都府）「交通科学博物館」（大

阪府)「シマノ自転車博物館サイクルセンター」(大阪府)「毎日放送放送文化館」(大阪府)「松下電器技術館」(大阪府)「J.T生命誌研究館」(大阪府)「松下電気歴史館」(大阪府)「ガス科学館」(大阪府)「姫路ガスエネルギー館」(兵庫県)「真珠博物館」(三重県)「映画村文化館」(京都府)「池田文庫」(大阪府)以上若干の施設を紹介したが、これらの館には専任の学芸員が配属されている場合は少なく、社員が交替で解説研究を行い案内しているところが多い。それに対し『人物記念館事典』に収録されている館は主に独立した建物で、その展示面積も広く、学芸員が配属されている施設がほとんどである。

「京都府立堂本印象美術館」等はこの最右翼の施設であろう。「芦屋市谷崎潤一郎記念館」「神戸市立小磯記念美術館」もユニークである。

「私立博物館」はバラエティに富んでおり、伝統と歴史のある美術館施設の一例をあげると、「サントリー美術館」「プリジストン美術館」「五島美術館」「根津美術館」「畠山記念館」「山種美術館」「M.O.A美術館」「徳川美術館」「泉屋博物館」「楽美術館」「高麗美術館」「逸翁美術館」「正木美術館」「萬野美術館」「湯木美術館」「瀬川美術館」「香雪美術館」「滴翠美術館」「鉄斎美術館」「白鶴美術館」「大和文華館」等がある。これらの美術館では四季特別展を開催し、美術教育に寄与するとともに社会教育に寄与している。また学芸員のスタッフもそろっており、『カタログ』『研究紀要』にはその学識の高さが伺える。永年の勤務実績と高度の学問的業績がなくてはなかなか採用されない。しかし、これらの美術館学芸員はその業績を認められ、国立機関や大学教師として転出されていく人もあり、欠員も生じてくるので、その情報を早くキャッチした者が

勝利者となる。

ユニークな博物館として「刀剣博物館」「日本書道美術館」「日本刀装具美術館」「船の科学館」「博物館明治村」等がある。これらは自分の趣味を生かして、それを専門的に研究すれば採用されることもある。また縁古関係等の採用も多く、知り合いの人がいる場合一筆紹介状等書いて持参すると便宜をはかってもらえる事も可能であろう。常に情報網をはっておき、それに対して素早く行動を起こすことである。

第五章 大学附属博物館

身近な例として大学に附属する「大学博物館」がある。平成十四年度末の総計記録によると大学附属博物館施設は八九館となっている。これは博物館相当施設とし登録されたもので、大学の教育研究機関であり、また社会教育施設にも寄与する目的で一般公開されたものである。博物館の規模としてはほとんどが展示室二〜三室とその他のスペースで、学芸員数も管理職を含めて二〜三名という施設が大多数である。しかし例外もあり、「天理大学附属天理参考館」はその規模において一般の博物館と比し遜色のない堂々たる展示が行われており、館長を含め学芸員が一九名も配属されている。また館独自の発掘調査も手がけている。その他規模の大きな館は「秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館」「東京芸術大学芸術資料館」「東京大学総合研究博物館」国学院大学には三館、明治大学にも三館の施設を有している。「早稲田大学演劇博物館」「国際基督教大学湯浅八郎記念館」「東海大学自然史博物館」「海洋科学博物館」「京都大学

総合博物館」「関西大学博物館」「神戸商船大学海事資料館」等がある。近畿地方における博物館は滋賀県一館、京都府四館、大阪府五館、兵庫県二館、奈良県一館、和歌山県一館となっている。この施設の学芸員採用は一般公募はほとんど無く、その大学の卒業生、縁古推薦関係で占められている。それ故大学の職員として採用され配属される。また欠員があれば、資格を習得している人で、その資料に深い専門的学識を有している者が優先的に配属されているようだ。

これらの施設の学芸員になるには、展示資料に専門的知識があり、資料の調査研究歴があり、二〜三編の研究業績があること、また資料解説ができなくてはならぬ。その為には是非とも大学院へ進学し、専門的に研究しておくことである。いつ欠員が生じるかも知れぬ。その時には代理学芸員も勤まるぐらいに、日頃より博物館通いをして館内の情況に精通しておくべきであろう。

将来は必ず学芸員として勤務したいとの信念で日々努力しておれば、いつかは希望もかなえられる。

第六章 博物館ディスプレイ会社への就職

経営母体がどこであろうと博物館設置が決定すると建築委員会が発足し企画調査、構想、設計、工事、開館準備、開館という段階を踏まえる。建築設計業者を選考し基本設計を依頼、青写真を作り、それにもとづいて作業を進める。

建築設計業者とともに、展示ディスプレイ会社を選定し博物館施設の

ディスプレイ、商業施設・企画施設等の規格、設計、デザイン等実績ある会社担当者の意見を聞き、担当学芸員が主となり総合的に計画立案し設立委員会により最終決定を見る。次に大手専門会社を紹介してみたい。

「乃村工藝社」(東京都港区芝浦四丁目六番四号・電話(〇三)三四五五二一七(代表) 一〇八八五六五)はディスプレイのトップ企業であろう。東証第二部に上場されており、多数のグループ会社を設立し、ディスプレイおよび建築関係の調査、コンサルティング、企画、設計、デザイン、制作施工、各種施設、イベントの運営等を手がけ、専門店分野、大型商業施設分野、企画PR施設分野、販売促進分野、博覧会のイベント分野、余暇施設分野、文化芸術施設分野、公共施設分野、ホテル・ブライダル分野等の空間演出をしている。(当社インフォーメーションによる)

文化芸術施設分野の中より近年主な実績を上げると「奈良県立万葉文化館」(奈良県)「ニユースパーク」(日本新聞博物館・横浜市)「福井県立恐竜博物館」(勝山市)「勿来関文学歴史館」(いわき市)「米沢市上杉博物館」(米沢市)「大阪歴史博物館」(大阪市)「埼玉県環境科学国際センター」(騎西町)「沖縄県平和祈念資料館」(糸満市)「東北歴史博物館」(多賀城市)「川崎市岡本太郎美術館」(川崎市)「佐賀県立宇宙科学館」(武雄市)「白山山地ビジターセンター」(青森県西目屋村)「いわき市立草野心平記念文学館」(いわき市)など多数受注完成されているが省略する。ここの業務においては学芸員講座で学んだ知識が充分生かされると思う。

また同社では「文化環境研究所」を設立、「ミュージアムを中心とする

調査研究をベースとした文化関連施設の事業・運営コンサルタント」事業を行つてゐる。その事業概要はインフォメーションによると

- ・情報処理サービス及びこれに関する同書出版物の発行
- ・講演会・研修会等教育に関する事業
- ・各種イベントの企画・運営・制作
- ・宣伝、販売促進に関する情報・資料の収集、企画及び販売
- ・映画、テレビ等映像ソフトウェアの企画制作、出版
- ・ミュージアム等文化施設の運営、保守及び管理に関する業務
- ・ミュージアムショップで販売する商品の企画、デザイン、制作販売及び輸出入等である。

特に情報提供事業においては、「機関紙」「研究紀要」等を発行し、学界等へも寄与すると同時に学会へ加盟し、貴重な発行を行うと同時に事業へ反映している。関連会社は「文化環境研究所」を含めて一九社にばかり、ミュージアムディスプレイ関連企画会社としてわが国のトップに位置していると考えられる。同様の事業会社はわが国においてはその専門性をいかし、業績を上げている会社は数十社あり、ミュージアム建築に寄与している。

「丹青社」(東京都台東区上野五丁目二番二号〒一〇八五四九 電話〇三三三三六七四三三)は東京証券取引所第一部に上場されており、インフォメーションによると「空間」をキーワードに次の施設の調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理、運営およびコンサルティング、プロデュースを事業主体にしている。

①商業・サービス空間(ショッピングセンター、百貨店、専門店、飲

食店等)

- ②文化空間(各種博物館と関連施設、企業資料館、各種教育センター、エコミュージアム等)
 - ③レジャー・アミューズメント空間(テーマパーク、アミューズメント施設、シアター等)
 - ④文化振興イベント(博覧会、展覧会、スポーツイベント等)
 - ⑤宣伝、販促イベント(企業展示会、見本市、プロモーションイベント等)
 - ⑥パブリック空間(学校、医療、福祉施設、地域・観光振興施設、駅、空港等)
 - ⑦ビジネス空間(オフィス、シヨールーム、会議施設、研修施設等)
 - ⑧サイン・モニュメント(屋内外案内サイン、モニュメント、オブジエ等)
- 以上であり、空間を創出する専門業者として「社会交流空間づくり」を目指し、事業所は全国に十カ所の支社、営業所があり、子会社は十社、中国、上海に有限公社を持つトップ企業である。
- 近年展示設計、デザインを引受けた「北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)」は非常に話題性にとみ好評である。また、東京江戸川区に設立された「地下鉄博物館」は既存の資料や展示に加え、音声、映像をミックスし「見て、触れて楽しみながら学ぶ」来場者参加型施設として多くの入場者があり、まれにみる展示の充実した施設である。業務内容からみて「学芸員講座」で学んだ諸知識を生かせる職場であると考え。今後ますます発展する企業であると推測する。

「トータルメディア開発研究所」(東京都千代田区紀尾井町三番二三号
文芸春秋新館六階 〒一〇二〇〇九四 電話〇三(三三二二一)五五五八)
も文化施設に関する施設の調査、構想、計画、設計、展示及び情報施設
等の制作、施工、展示資料の収蔵、調査、運営等に関する総合事業を行
っており、ディスプレイ関係会社のトップ企業である。

同社は一九七〇年日本万国博覧会が開催されたのを機に同政府館をプ
ロデュースした関係から文化の事業化、事業の文化化を領域として設立
された。

事業内容は前記二社と同様であり、特に企業博物館に秀でた業績があ
る。同社企業文化施設カタログによると「日本はきもの博物館」「竹中大
工道具館」「サンリオピューロランド」「キッコーマンもの知りしょうゆ
館」「トステムハウジングプラザ東京」「キリンビールパーク北陸」
「参宮歴史館おかげ座」「NHKスタジオパーク」「早稲田大学津八二記
念博物館」「渋沢史料館」「七十七銀行金融資料館」「菊正宗酒造記念館」
「三光丸クスリ資料館」「日清食品インスタントラーメン発明記念館」「司
馬遼太郎記念館」「椿本チエーン京田辺工場エントランスホール」等の実
績があり、官公立の博物館は一三〇館を越えている。「刊行物」「学会発
表」「セミナー」も盛んであり、「日本展示学会」をはじめ関係諸団体に
加盟し貴重な研究発表がなされている。

また「文化総合研究所」も設立されている。将来が楽しみな企業とい
える。

以上の会社の他に筆者の目についた博物館展示の関連会社をあげてみ
る。

「株式会社京都科学」(京都市伏見区下鳥羽渡瀬町三五二)

昭和二三年(一九四八)島津製作所から分離独立し、生物、地学、社
会関係学校教育用模型、標本、実験機器等を製造販売したのを初めとし、
科学、歴史、考古等の文化遺産のレプリカ製作等を行い科学館、博物館
の資料充実及び展示の需要に応えている。

現在、教育機器部、工芸部、科学展示部があり、標本・模型、実験機
器の製作・複製・復元・修復・保存・処理、また文化施設のトータルプ
ロデュース、展示メディアの開発・製作分野にも進出している。近年関
西文化学術研究都市に「開発センター」を設立し、文化財の修復や保存
処理の研究(仏像彫刻修復研究室・金属製品調査研究室)分野にも業績
をあげているトップ企業として不動の地位を占めている。

「日精株式会社」(東京都港区西新橋一・一八・一七明産ビル 〒一〇五
八四一一 電話〇三(三五〇二)三四七二)

同社は「メーカー機能」と「商社機能」を有しており、機械式駐車設
備のトップメーカーである。展示ディスプレイ分野では多数の博物館・
美術館等文化施設の展示・設計・施工実績があり、また模型、ジオラマ、
レプリカ等関連施設へ納入している。事業所は本社、分室の他七カ所の
支店、営業所、工場があり会社も四社を擁している。

「株式会社内田洋行」(東京都中央区新川二四七)

同社は「環境ビジネス」「教育ビジネス」「情報ビジネス」の三つの柱
を中心にIT事業を核に業績を伸ばしている。文化施設においても全国
に納入実績があり特に映像システムに傑出している。優秀な人材が入社
しており、トップ企業として今後も発展を続けていくものと推測する。

「株式会社トリアド工房」(東京都八王子市大塚六三六二)

文化施設、環境施設、商業施設等の企画、設計、施工、監理等を事業主体に模型、複製品、映像、音響等の企画、設計ならびに製作を手がける。東京国立博物館、国立歴史民俗博物館をはじめ、都道府県及び市町村の文化施設に納入しており、その実績は平成八年以降においても約一五〇機関へ納入されている。中堅企業として着実に業績をのばされている将来が楽しみな企業である。

「株式会社西尾製作所」(京都市山科区柳辻池尻町四八 一六〇七八
一六八 電話〇七五(五九四)〇一八一)

植物、動物レプリカ製作、自然、歴史、資料の復元のジオラマ、人類、考古関係の模型レプリカ、保存処理等に優れた業績があり、また大型ジオラマ、大型動植物の全身骨格にその技術は他業者をリードしている。

「荒川技研工業株式会社」(東京都豊島区高田三三三二二 一七七一〇
〇三三 電話〇三(三三二〇二)九一七七)

同社は「ワイヤー吊り金具」の製造販売のトップメーカーで、国立西洋美術館の諸絵画、彫刻展示等一手に引受けており、また主に美術館、商業施設向けの商品開発に著しい業績をあげている。テーマ別商品開発へも事業を展開しており、今後に期待される企業である。

この他「岡村製作所」「日展」「ヤマネ」等の事業者もミュージアム用什器備品の製作に係わり、業績を向上させている。

以上ミュージアムディスプレイ会社を若干紹介したが、事業内容が博物館関連施設の企画、デザイン、設計、施工展示等で、学芸員課程で学んだ知識が有効に活用できる業種であると考えられる。たとえば学芸員になれ

なくても、このような施設で設立担当学芸員とタイアップして博物館設立業務に携わっていくことは意義のあることであろう。

会社勤めや公務員などには定年制があるが、定年のない生涯の仕事として、その才能を生かし生計をたてる「芸術家」を目指すのも一つの方法である。

わが国では様々なジャンルの「芸術家」が輩出し、多数の美術工芸品が残されている。それらを美術館、博物館施設で展示し、鑑賞されている。そこでこの学芸員になるのではなく、国宝や重要文化財に指定されている文化財(芸術資料)を製作する「芸術家」を目指してみるのも意義あることではないだろうか。

『芸術家年鑑』『美術家年鑑』等を開くと、そこに諸々のジャンルの芸術家の氏名が出てくる。「画家」「陶芸家」「書家」「漆芸作家」「金工家」「染織」「図案作家」「刀剣作家」「鐔作家」「篆刻・刻字作家」「木竹木芸作家」「硝子工芸作家」「象嵌・七宝作家」等である。これら各界の第一人者となり、世間に認められるようになるには永い修業と自己鍛錬が必要であり、終生が仕事である。

「好きこそ物の上手なれ」といわれる如く、人間には一人一人にかけられた才能があるものである。絵心のある人は画家を目指し、手先の器用な人は陶芸家や木竹木芸作家、文字、かなに興味のある人は書家等に向いていると考える。将来を見つめ、後世に残る芸術作品といわれる美術品を製作することは無上の喜びであろう。この芸術家にチャレンジしてみても如何なるものであろうか。また芸術家でなくてもこの職種と同様な技能・技術を有するものに「伝統工芸品」技術者があり、わが国で指

定・保護をはかっているものだけでも八〇〇件にのぼっている。一千年という永い歴史の中で日本人が培ってきた独創的な技術によって作られる日常生活の必需品を指し、天然の原材料に伝統的な技術を駆使した手作業によって作り出された製品である。この「伝統工芸品」の種別を見ると、大まかに分けて「織物」「染色品」「漆器」「陶磁器」「金工品」「木竹品」「仏壇・仏具」「和紙」「文具」「石製品・貴石細工」「人形・玩具」「扇子・うちわ」「くみひも・刺繍」等に分かれる。そしてこの各種の材料を用い、高度な伝統的技術、技法等を有する経験年数二〇年以上の技術者のうち認定試験に合格したものが「伝統工芸士」であり、平成八年度末に四四一名が認定されている。伝統工芸品は日常生活用品であり一つ一つが手づくりの為、地味な忍耐と努力が必要で、長い年月の修業によつてしか体得できない為、後継者不足も起つており深刻な悩みもある業種もある。その為この職人を目指す人は比較的容易に就職できると考える。この技術者の中にも業種によつては芸術家、人間国宝といわれる人にも劣らぬ高度な製品を世に送り出し、尊敬を集めておられる人も多勢活躍されている。自分の創意工夫によつて素晴らしい製品を世に出し、賞賛の的になることだつてあるかも知れぬ、会社等へ就職を考えることも良いが、技術職人として生涯を生きることも意義ある人生ではないかと思う。

第七章 美術工芸品の修復技術者等への就職

東京国立文化財研究所・奈良国立文化財研究所は文化財の研究保存修

理を行う施設であるが、研究的性格を有している。これに対して昭和五年（一九八〇）京都国立博物館内に「文化財保存修理所」が設立され業務が開始された。管理運営については博物館が行い、直接的な保存修理については民間から選ばれ「選定保存技術」に認められた複数の修理工房が担当し、多数の国宝、重要文化財の修復を行い、わが国の文化財保存に寄与している。次に博物館内の選定業者を紹介したい。

「株式会社岡墨光堂」（京都市中京区富小路三条上ル一二二 千六〇四、八〇八四 電話〇七五二二一五四三七）

修復技術のトップ企業で、多数の国宝、重要文化財（絵画・書跡・典籍・古文書・歴史資料他）の修復を引受け、完了後宮内庁、東京国立近代美術館、金沢文庫、冷泉家時雨亭文庫、根津美術館その他の著名博物館施設へ納入されている。同社は明治二十七年（一八九四）創業し、平成六年（一九九四）創業百周年で業界の老舗である。昭和五五年（一九八〇）京都国立博物館内に文化財保存修理所が開設されたのを機に事業の大半主要部を同所へ移し、修復と同時に修復に関する学術的研究にも力を入れている。今後の修復は今までの伝統技術に加え最近の科学技術を取り入れ、より完成度の高いものとしていくとされている。

修理に関する報告、技術研究、検査等をまとめた冊子『修復』（七号迄発行）を発行され、技術者の向上と技術者の養成に力を入れておられる。また『美術工芸品の保存と保管』（一九九四年フジテクノシステム社発行）という大著が出ているが、その中で「伝統的修理方法」「装潢」の項目に、修理の基本技術に関して執筆されている。業界のリーダーとして今後の発展を期待したいものである。

「株式会社宇佐見松鶴堂」（京都市下京区西中筋通花屋町下ル 一六〇
〇八三四九 電話〇七五三七・一五九三）

岡墨光堂と並ぶ修復技術業者のトップ企業で、文化財保存修理所及び
本社事業所において社寺、博物館の美術工芸品（掛軸、卷子本・折本、
冊子、屏風、襖、衝立）の表装、修復を行っている。

以上の業者の他「美術院」は仏像・漆工・金工の修復を行い「光影堂」
「墨申堂」「六法美術」「京都科学」の業者が修復、模写、模造を引き受け
ている。

文化財修復技術に興味があり、自分の性格に合い、手元が器用で根気
があり団体活動より個人技が得意と思っている人は一度問い合わせ訪問
してみると良い。

おわりに

以上に述べた如く、学芸員知識を応用して活躍する企業は多数ある。
自分の才能と学識を考え、チャレンジしてほしいものである。採用規
準も年々厳しくなってくるであろう。大学卒業後に自分の目標を決め、そ
の目標を達成すべく努力することである。例えば関西において数館では
あるが「博物館ボランティア」という組織があり、このボランティア部
門に「販売部門」「解説部門」「資料部門」等があり、それぞれに責任を
もち業務の一端を担っている。この制度を利用して大学在学中にも日曜
日等ボランティアとして奉仕し、卒業後も続けていた。そしてこの業務
を研究し、体系化し、学術雑誌に発表した。それが高く評価され、正職

員に採用され、数年後には欠員が生じ、目出度く学芸員となったとい
う一例も聞き及んだ。ボランティア募集は毎年行っており、まず採用され
自分で体験してみることだ。美術館等は①監視業務②友の会業務③販売
業務④解説業務等多彩である。募集要領についてみると、①ボラン
ティア要項の発表②募集③応募④研修（養成）⑤面接⑥選考⑦登録⑧活動と
いう過程を踏んでいるところが多い。まずボランティアとして博物館施
設で働いてみるのも人生経験でプラスになると考える。